

「趣味の効用」

吉田 崇



写真 利根川自転車道



写真 大学2年夏の信州合宿時 長野県嶺方峠にて

今年の日航ジャンボ機墜落事故から25年目の夏であるという。大きな事件や事故の記憶と当時の自分を重ね合わせて回想することはよくあると思うが、当時、私は大学3年の夏休みだった。前年に、所属するサイクリング部の信州での夏合宿の後、一人で長野、群馬県境の十石峠を越え、上野村を経て、実家に帰省したが、墜落現場がその時に自分が自転車で通ってきた場所とそれほど遠くないことを知り、驚いたことを記憶している。

事故から25年の報道を見て、自分が建築という仕事についてから20年以上たったことを再認識させられた。私のいた大学の建築学科は、2年次から専門科目の履修が始まったので、25年前は建築の道を歩みだした頃に当たるのではないかと思う。ただ、あまり真面目ではなかった私の大学時代の思い出は、学業よりサークル活動やアルバイトの記憶のほうが多い。中でも所属していたサイクリング部の春と夏の合宿とその前後の個人ランを含む数週間にわたる長期ツ

ーリングは、学生時代ならでの思い出だと思う。卒業後も数年間は、お盆や年末年始の休みに数日間のツーリングに出かけていたが、その後は遠ざかっていた。構造設計は、きつい、キリがない、帰れない…等、Kがいくつもつきそうな職業だと思う。私も、納期に追われたり、仕事が重なったりした時には、時間的、精神的に解放されず、仕事に対する意欲も失いそうになる。そんな時、一度頭の中を空っぽにしてリセットしてみることで気持ちが楽になったり、行き詰まっていることの解決策が見えてきたりすることもある。仕事で追い詰められている時に仕事の事を忘れるのは難しいが、趣味を楽しむことはひとつの方法ではないかと思う。

数年前から、少しずつサイクリングを再開しているが、自転車で峠道を登っているときに、ふと自分が何も考えず、無になっていることに気がついて、すごく新鮮な気持ちになったことがある。坂を上り始めると、最初はあれこれと雑念が浮かんでく

るが、そのうち何も考えずにただひたすらペダルを回すようになる。軟弱な私は途中で休んだり、自転車を押したりして頂上にたどり着くことが多いが、それでもちょっとした達成感や解放感を感じることができ、精神的なリセットには十分だと思う。現在は遠方に出かけることはなかなかできず、近くの利根川沿いのサイクリングロードを走ったりすることが多いが、今年は7月に、20年ぶりにテント泊で琵琶湖を回ってきた。サイクリングの中にパスハンティング(峠越え)という楽しみ方がある。山の多い日本ならではの楽しみ方といえるが、私もこれから現れるであろう構造設計の険しいPASS(峠)越えを楽しみたいと思っている。

(次回は萩原 太一氏)

(よしだ たかし)
1963年生まれ 群馬県出身
88年新潟大学工学部建築学科卒業 現在、吉田設計代表 一級建築士 構造設計一級建築士 趣味はサイクリング、旅行、アウトドア

